

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

別添資料6

公表：2020年2月27日

事業所名 きずな学園レゴンキッズ都島

保護者等数（児童数） 40 回収数 26 割合 60%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	24			2		
	2 職員の配置数や専門性は適切である	18	1		7	専門分野の先生が毎日いてくれるといい。	現在STが非常勤となつているため、専門職だけでなく他の職員の専門性を高めて対応していきたいと思います。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	18	1		8		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	18	1		8		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	23			3		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている						
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	23			3		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	21	1		5		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	1	1	19		
適切な 支援の 提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	24			2		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた						
	12 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われている						
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	21	4	1		伝えてくださる先生もいたが、そうでない先生もいる。	お帰りの際は、必ずその日の様子を伝えられるように徹底していきます。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	16	8		2		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	2	2	12	10	他の保護者と会う機会が全くない。	要望が多ければ開催を検討します。
16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	8	3		15			

	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	19	4		3	
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	19	3		4	
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	19	2		5	
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	16	1	3	6	
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	10	1		15	
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	23	1	1	1	「先生は？」と毎日何回も聞いてくるほど触れ合いが楽しい様子。 今後も子どもたちが楽しく通所できる環境づくりをしていきたいと思えます。
	23	事業所の支援に満足している	23	2		1	言葉数も増え、理解力も成長しているように思い感謝でいっぱいです。 ご家族の方の要望にできる限り応えられるよう、また子どもたちの成長と一緒に喜べるような支援をしていきます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

児童発達支援事業所における自己評価結果
(公表)

別添資料5

公表：2020年2月27日

事業所名 きずな学園レゴンキッズ都島

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		個室を設けて言語療育を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	3		余裕のある人員配置が必要。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	滑らないように、マットを敷いている。	トイレの段差で子供が躓くことが多いため、改善が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	2	しっかり体を動かす時間とそうでない時間で空間を分けている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		一定期間やってみて改善が必要な点は、都度改善している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			今回初めての実施のため、意見を取り入れながらよい支援につなげていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	3		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		会議で自主研修を行ったり、外部研修にも参加している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		児童の特性を見ながら、作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2	職員全員が療育に参加できるように協力している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		連絡帳を見ながら、前回と同じ内容の療育にならないようにしている	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	6		それぞれの児童に見合った支援計画書を作成している。	

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		前日の引継ぎを必ず行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2	日報に記録し、次の日に確認できるようにしている。	支援終了後に打ち合わせを行うような時間を設ける必要がある。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		連絡帳に記録し、振り返りを行っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		半年に一回は見直しを行い、職員全員で意見を出し合っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	3		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	お迎えの際に、引継ぎを行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		今後はこのような機会を設けていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		夕方の送りの際には、必ず様子を伝えている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4		家族支援を計画に入れる必要がある。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	面談は、保護者の気持ちが増える機会になればと思っている。必要な場合は電話連絡をとりお話をする機会	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6		要望が多ければ開催する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	3	利用希望を伺うときに行事予定を伝えている。その都度活動概要を報告している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		連絡帳にその日の様子を記載し、送迎の際にも伝えている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1		保護者に対して早急に周知する必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3		口頭の申し出のみなので、今後アレルギーのあるお子様には指示書を持たれているか確認を行っていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1		何が虐待になるのかを理解できていない職員もいる可能性もあるため、今後研修には積極的に参加していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。